

第10回 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 議事録

日 時 令和2年2月13日(木) 17時30分～

会 場 武蔵野プレイス4階 フォーラムA

参加者 板垣文彦委員、宇佐見義尚委員◎、北村淳子委員、助友裕子委員、白田紀子委員、花田吉隆委員、松村勝人委員、斉藤愛嗣委員、福島文昭委員
◎委員長

資 料 資料1 第二期武蔵野市生涯学習計画(案)

資料2 パブリックコメントの結果と対応について

資料3 第9回委員会での主なご意見と対応

議事

1 第二期武蔵野市生涯学習計画案について

事務局から資料1を用いて、計画案の変更点について説明を行った。

委員長 今日には主に説明のあった部分を議論していきたい。いかがか。

委員 計画(案)P26「ライフステージ、ライフスタイルに応じた学びの機会の提供」の主な施策「子育てと仕事をつなぐ学びの機会の提供」について検討いただきたい。子育てをしながら学びの時間を確保することが難しいと書かれているが、子どもや職場の人など、多様な他者とのかかわりのなかで学ぶこともある。社会的学習理論という考え方もあるので、「難しい」と書いてしまうのではなく、社会的学習に気づくように促す記述もあっていいのではないか。

委員長 子育てや仕事から学ぶこともある旨を表現できるか。

事務局 事業を具体的にイメージしにくいので、詳しく教えてほしい。

委員 事業自体はアンガーマネジメントに関する講座でよいと思うが、その事業の意味づけを変えてはどうかと思う。

委員長 そのようにすると事業の厚みが出ると思う。

委員 現在のアンガーマネジメントの講座の内容はどういったものか。

委員 武蔵野プレイスで実施したことがあり、アンガーマネジメントの考え方やスキルを紹介し、気づきを得てもらうことを目的とした。

事務局 今回は最終回なので、この場でどのように変更するかできる限り決めたい。現状を書いている部分は「イベントや講座に参加する時間を確保することが難しい一方で、子育てや仕事のなかで生きた体験を得ることができる」などと変更するとして、事業の内容はどのように変えるべきか意見をいただきたい。

委員 学びの時間の確保が難しいということが実態に即していないと思っただけの意見だった。自分も子育てをしているなかで日々学んでいる。そのような学びを支援するような内容にしてはどうかと思う。

事務局 あくまで文章表現を工夫すればよいということか。

委員 そのように理解してもらいたい。

事務局 アンケート調査では子育て等で時間がないから学べないという結果が得られている。そういった方にも学んでいることに気づけるようにするということと理解した。事務局で検討させていただきたい。

委員 この計画の進捗状況を確認する主体はどこか。

事務局 計画（案）P4に示しているとおりでである。

委員長 計画の進捗確認が4年目と9年目になっている理由はあるのか。

事務局 9年目は計画改定の前年度にあたるので、計画の進捗状況を確認しなければならない。4年目はその改定年度までの半期にあたる。

委員 施策の優先順位が明示されず、どのように着手されていくのかが示されていない。現場がどのように動くのか分からないので、市民としては不安を感じる。

委員 この計画での重点事業については、以前に事務局から議論を打診されたが、委員会では議論が煮詰まらなかった。それとは別に計画推進に対する不安については、進捗確認を行うよう求める方がよいと思う。今回の計画は具体的で意欲的だとは思いますが、それだけにすべてを実現するのは大変だと思う。そのため、進捗確認において何が実現でき、何が実現できなかったのかを精査するべきだと思う。

委員 教育委員会による点検評価は法の定めるところである。社会教育委員会での点検評価はそうではない。そのため、点検評価の方法から社会教育委員会で議論いただき、適切な方法を探ってもらうことも可能である。

委員 この計画を推進していく主体はどこになるのか。

委員長 社会教育委員が現場をどれだけ認識しているのかが課題になるだろう。

委員 武蔵野市には生涯学習審議会は設置されているのか。また設置予定はあるか。

事務局 設置はしておらず、今後も予定はない。

委員 自分が所属する団体はこの計画を推進していく主体のひとつだと思うが、庁内でも様々な課が計画の推進を担っている。いろいろな主体がかかっているのので、一貫して点検評価する組織があった方がよいと思う。

委員 武蔵野市では子どもに関する行政計画は多岐にわたっており、点検評価だけで膨大な時間がかかっている。そのコストを減らしていこうとしているのだが、本計画においても点検評価の詳細についても検討する必要があると考える。

委員 パブリックコメント以外にも庁内で意見があったと報告があったが、どのような部署から意見があったのか。

事務局 計画に関連する部署すべてから意見を募った。

委員 この計画は、教育委員会以外にも、首長部局とも連携を図らないといけない。課長・係長レベルの職員のフォーマルな連携だけでなく、若い職員のインフォーマルなつながりがあると、庁内で自然と連携できるのではないか。

委員長 計画に取り入れるとすると、どこになるか。

委員 「計画の進行管理」になるのではないかと思う。この計画のようにテーマが多岐にわたると、教育委員会だけで評価のためのデータが収集できると思えない。

庁内で関係する部局に協力してもらわないといけない。

委員長

第三者委員会を立ち上げるようなことになるのか。

委員

そのようなフォーマルな場ではなく、自主的なつながりが望ましい。

委員長

部署を超えて若手職員が意見を交換できる機会などはあるのか。

委員

自主的な勉強会を行っている例もあるが、この計画に関していうとフォーマルなカタチでないと難しいように思う。

事務局

生涯学習スポーツ課と市民活動推進課、武蔵野プレイス、児童青少年課が情報共有のための会議を設けてはいる。ただ、ご意見に対しては範囲が狭いのだろう。

委員

行政は分野横断的に取り組まないといけないのだが、武蔵野市はまだ縦割り型の組織のままなのだと思う。横の連携を図るための庁内の体制を整えていかないといけないと思っている。

委員長

貴重な意見だと思うが、この計画が単独で取り上げるには大きな課題ではないか。

委員

武蔵野市では横の連携を図ろうとしていると認識している。実際に部局をまたいだ勉強会なども開催されている。武蔵野地域五大学も活用しながら取り組んでみるとよいと思う。

委員

ルーテル学院大学と連携した地域福祉ファシリテーター養成講座は古くから取り組まれているが、計画には取り上げられていない。五大学の取組は掲載されているので、養成講座も掲載した方がよいのではないか。

事務局

前回の計画では事業を網羅的に掲載しようとしていたが、今回の計画では既存事業を網羅することは避けている。また、関係課からも事業を掲載してほしいという要望がある中で、厳選した結果として計画（案）P6に事業を掲載している。その点をご理解いただきたい。

委員

五大学との連携を強調するために他の大学名を出さないなどの理由があるのか。

事務局

固有の大学の名前を出さないという意図はない。関係部署とも協議し、精査した結果として計画（案）P6のリストとなっている。

委員

地域福祉ファシリテーター養成講座はかなりの予算がかかっているのに、一覧にないということは自分としては不自然だとは思っている。ただ、現時点で修正できないということは理解した。

事務局

計画（案）P6のリストへの掲載は予算の多寡とも関係がないことも理解いただきたい。

委員長

最後に感想をいただきたい。

委員

進捗管理については気になる場所である。かなり具体性のある計画なので、推進が大変だと思っている。すべて実行できれば市民も得るところが大きいと思うので、委員の皆さんも点検評価や事業の実践にご協力いただきたい。

委員

行政計画策定時の担当者の満足度を調べたことがあるが、担当者の満足度が高ければ策定は成功だという結論を得ている。今回の計画も担当者の満足度が高

- ければよいと思う。先ほども話したが、庁内における横の連携を図ってもらいたいし、市役所の外から連携を促していくようなこともしていきたいと思う。
- 委員 社会教育委員会の一員として、この計画が推進されていくことを支援していきたい。
- 委員 苦言ばかりで申し訳なかったが、公募市民としては現場の状況を会議に伝えていくべきだと思ってのことだった。武蔵野プレイスでは多くのことに取り組んでいるので、地域に出て行って生涯学習を支援してもらいたいと思う。
- 委員 日本が大きな変革期にある中で、生涯学習が重要になってきていると感じている。この委員会は方向性を議論することに役割があると考えており、自分もこれについて意見をしてきたつもりである。
- 委員 この計画はマスタープランであるため、抽象度は高いと思っている。そのため議論が難しかったとは思いますが、皆様のおかげで策定できた。ただ、実行していく上での課題も多いので、担当課が計画に示されたことをできるかぎり具体化し、基本理念を実現していきたい。
- 委員 多くの意見をどのようにまとめていくのかと思っていたが、事務局にうまくまとめていただいたと思っている。
- 委員 委員会で様々な意見を聞いて勉強になった。「学びおくりあい、わたしたちがつくるまち」という理念はよいと思う。学校を中心としたコミュニティにかかわってきたが、子どもがいない人も少なくない。学校以外のものが核となったコミュニティが必要になると思っている。また、このような計画が策定されると、生涯学習活動をしている立場としては身が引き締まる。
- 委員長 自分たちで計画を書きたかったという思いはある。豊島区では委員が書くという例もあるので、今後のこととして検討いただきたい。委員会は楽しい時間だった。事務局も尽力いただいたと思う。
- 事務局 4月から10回にわたり、委員会にご参加いただき感謝申し上げます。12月の周知イベントも100名を超える方が参加いただき、そのおかげでパブリックコメントも多くいただいた。計画策定後には行政として計画を推進していかなければならない。「生涯学習とは何か」ということを考えながら、計画を推進していきたい。

2 その他

事務局より、今後の策定スケジュールについて説明を行った。